

# Monthly Report

Vol.73 / 2012 May.

## 学生食堂の愛称が「なちゅら」に決定



学内で「食の学びの場、癒しの空間」をポリシーとした学生食堂の愛称を募り117通の応募がありました。学食愛称選考審査員6名の厳正な選考の結果、成澤舞さん（運動栄養学科2年／酒田西高卒）の「なちゅら」に決定しました。5月19日（土）には学生食堂愛称披露式が行われ、愛称・ロゴマークの披露と、最優秀賞・優秀賞・佳作の各賞の表彰、選考審査員の方への感謝状贈呈が行われました。近々、「なちゅら」のロゴマーク看板が学生食堂に掲示される予定です。

最優秀賞	「なちゅら」	<small>なりさわ まい</small> 成澤 舞さん（運動栄養学科2年）
優秀賞	「Dreamer」	<small>はた きょうへい</small> 畑 恭平さん（運動栄養学科3年）
佳作	「Hawkers」	<small>ほそかわしょうき</small> 細川 翔貴さん（体育学科2年）
〃	「SUPECS」	<small>さとうゆきこ</small> 佐藤幸子新助手（平成23年度卒）

### 成澤 舞さん(運動栄養学科2年)

学生食堂を「食の学びの場」、「癒しの空間」と考え、自然を意味する‘Nature’と‘Natural’の言葉を組み合わせて「なちゅら」というネーミングを考えました。平仮名表記にしたのは柔らかなニュアンスと和める雰囲気を入れたかったからです。

今まで「学食」、「食堂」と呼んでいたのを突然「なちゅら」と呼んでと言われても難しいかもしれませんが、呼んでくれる人が増えたら嬉しいです。

## 目次

学生食堂の愛称が「なちゅら」に決定	1
ノアフェンス国民大学と締結 仙台大学高校会へ感謝状	2
平田教授が永年勤続表彰 アナリスト渡辺氏講演	3
学術会：新任教員発表会 第3回体育祭	4
仙台国際ハーフマラソン JICAプログラムに参加	5
早川先生の研究紹介 プール解体工事はじまる	6
OBの活躍	7
学生の活躍	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございまし  
たら、広報室までご一報ください。

### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

## ノアフュンス国民大学(デンマーク)と国際交流協定締結



5月21日（月）、デンマーク国に所在するノアフュンス国民大学のMogens Godballe学校長と、日欧文化交流学院の千葉忠夫理事長が来学し、A棟大会議室において国際交流協定の締結を行いました。ノアフュンス国民大学は日本人留学生も多く在籍している学校で、本学からも健康福祉学科3年の三浦多輝美さんが現在留学しています。ま

た、高橋まゆみ准教授や卒業生の二宮ゆかりさん(平成20年度卒)がデンマークに留学して社会福祉国家の実情を学んだ際にもご尽力いただいております。今回の締結により、更なる教職員・学生の交流、情報交換活動交流等を行う予定です。

調印式後にはB104教室において“世界一幸福な国”といわれるデンマークの社会福祉の仕組みや学校教育についてご講演いただきました。千葉氏からは「日本は幸せな国か？どうすれば幸せになるか？」との問題提起がなされ、そのテーマについて受講した健康福祉学科の学生約70名と共に意見を出し合い、解決策を探りました。



## カヤーニ応用科学大学のTuro学長が来訪



4月29－5月2日に国際交流協定を結ぶカヤーニ応用科学大学（フィンランド共和国）のトュロキイルパライネン学長と教員2名が来仙し、今後の両大学間における国際交流に関する協議や施設見学等を行いました。今回の協議では、相互の留学や共同研究、プラクティクストレーニング等について話し合いが持たれました。

## 仙台大学高校会へ感謝状



第5体育館に壁掛け時計を寄贈いただいた仙台大学高校会（宮城県内の高校教員になられた本学同窓生で組織）に感謝の念を表す感謝状贈呈式が5月19日（土）に学生食堂で執り行われ、朴澤学長より高校会の滝川雅啓会長（4回生）に感謝状が贈呈されました。

## 平田忠教授が永年勤続者表彰を受賞



5月11日（金）に法人事務局で永年勤続者表彰式が行われ、佐藤宏専務理事、藤田・齋常務理事、櫻井理事が臨席のもと、朴澤理事長より平田教授に表彰状と記念品が授与されました。この賞は本学園に教職員として25年在職した方に授与されるもので、本年度の対象者は平田忠教授お一人でした。

※撮影：日野職員（法人事務局）

## 第26回管理栄養士国家試験合格者

今年3月に行われた第26回管理栄養士国家試験の合格発表が5月7日に行われ、本学運動栄養学科卒業生6名がこの難関の合格を果たしました。今年の合格率は栄養士養成施設の全国平均22.9%を上回る23.1%で、東北所在の栄養士養成課程の中では26校中7位という結果でした。

まきあきら

真木瑛新助手（平成22年度運動栄養学科卒）



自己採点では合格ラインをギリギリ上回る点数だったので、合格できて「ホッ」と安心しました。本格的に勉強を開始したのは、11月末に仙台大学修練会が行った「合格した先輩方の体

験談」に参加してからです。「今からでも十分に合う」との話を聞いてから、平日は毎朝3時00分～7時00分まで勉強し、土・日は東京アカデミーの講座を4コマ（9時40分～17時00分）受講して頑張りました。

今回の試験では、東日本大震災の影響で4月1日から働くことができなかったため、1年間の実務経験の見込みがもらえず、受験資格を得ることができなかった同期もいます。また、後輩たちはこれから受験を迎えます。今度は私が体験談を伝えて、少しでも力になっていきたいです。

また、個人的には管理栄養士資格に合格したことで、スポーツ栄養士の受講資格を得ることができました。今度はスポーツ栄養士資格取得を目指して勉強を続けていきたいと思います。

## 全日本女子バレー「火の鳥NIPPON」アナリストの渡辺啓太氏が講演



撮影：大黒ゆきこさん（ISIM情報戦略グループ）

5月29日（火）に全日本バレーボール女子チーム「火の鳥NIPPON」アナリストとして活躍されて

いる（公財）日本バレーボール協会の渡辺啓太氏を講師に招き、スポーツ情報マスメディア学科の授業「スポーツ起業論」と「スポーツ情報戦略フォーラム（主催：スポーツ情報マスメディア研究所情報戦略グループ）」で講演して頂きました。

渡辺氏がアナリストを務める女子チームはこの

2日前（27日）まで行われた世界最終予選でロンドンオリンピック出場を決めたばかりで、忙しい合間を縫って講演していただきました。「スポーツ情報戦略フォーラム」には男女バレーボール部を中心に約50名の参加があり、学生からの質問に渡辺氏が答える形で進められました。タイムリーな話題であること、男子バレーボール部が学生アナリストによるデータバレーをチームの戦略に取り入れていることもあり、学生たちから積極的な質問が出されていました。

渡辺氏は「パーセンテージの使い方は分母が低いほど次の1本によって大きく数字が変わってくるものなので、よく考えて示すことを心掛けている。」との話や、選手に向けて「1試合での数字をみて判断するのではなく、シーズンを通したデータを見て自分の課題を見つけるべき」など、第一線で活躍されている方の意見に学生たちは真剣に聞き入っている様子で、大変有意義な講演会となったようです。

## 平成24年度 新任教員発表会(主催:学術会)



5月22日(火)に第74回学術集会「平成24年度新任教員発表会」がA棟大会議室で開催され、4月に着任した9名の先生方よりこれまで取り組んできた研究内容や今後の研究計画等について発表がなされました。一人5分という限られた時間での発表でしたので先生方は時間内にまとめるのに苦慮された様子でしたが、それぞれの先生方の特徴をみて取ることができ、たいへん有意義な発表会となりました。

発表者	発表テーマ
入澤 裕樹 助教	体育科教育におけるベースボール型教材開発の検討
門野 洋介 助教	これまでの研究と仙台大学での研究計画
桑原 康平 助教	仙台大に着任するまでの活動報告&現在の活動報告
柴山 一仁 助教	110mハードル走の競技力向上に関するバイオメカニクスの研究
鈴木 良太 助教	跳馬における踏切り技術に関する伝承論的研究
高橋 陽介 助教	明成高校男子バスケットボール部アスレティックトレーナーとしての活動報告と実績
田中 智仁 講師	警備業は学問になりえるか
藪 耕太郎 講師	二元論的スポーツ史像の再検討
山梨 雅枝 助教	学校教育におけるコンテンポラリー・ダンスの導入による発展的学習について

## 第3回体育祭

～学生同士の交流の場～



5月19日(土)に第5体育館を会場にして体育祭が開催されました。このイベントは学生同士の交流の場を提供し、クラスやサークル以外の交流を深めてもらうことを主目的として学友会および学生有志が中心となって開催しているものです。1,2年生を中心に約220名の参加があり、バレーボール、バスケットボールを介して交流を深めました。体育祭終了後には表彰式を兼ねた打ち上げ懇親会が

学生食堂を会場に開催され、学生同士で大会の慰労しながら交流を深めました。体育祭を企画から進行まで務めた学友会および学生有志の皆さん大変お疲れ様でした。

### [総合成績]

- 第1位 健康福祉学科1年C2クラス
- 第1位 健康福祉学科1年C1クラス
- 第2位 運動栄養学科4年生チーム
- 第3位 UNEI3+α

### [バレーボール成績]

- 優勝 健康福祉学科1年C2クラス
- 第2位 UNEI3+α
- 第3位 体育学科1年Fクラス

### [バスケットボール成績]

- 優勝 健康福祉学科1年C1クラス
- 第2位 運動栄養学科4年生チーム
- 第3位 留学生チーム



## 第22回 仙台国際ハーフマラソン

5月13日(日)仙台市内において、第22回仙台国際ハーフマラソンが開催されました。朴沢学園も開催に協賛し、CM放送で明成高校と仙台大学開学45周年をPRしました。

今年も仙台市と姉妹都市をむすぶ各国からの招待選手やロンドンオリンピック出場が決定した藤原新選手はじめ国内からも招待選手を招き、過去最高の参加者1万1300人のランナーが晴天のなか、杜の都を走り抜けました。

本学からは笹川スポーツ財団から助成金を受けている研究の一環として、柴田恵里香助教が大会当日にランナーへアンケート調査を実施しました。調査に関しては、仙台市スポーツ振興課と観光交流課からの協力を得ることができ、アンケート回答者へは観光交流課から提供を受けた仙台市の絵ハガキ4種類が記念に手渡されました。

本学の学生9名も調査員として参加し、積極的にランナーに声をかけ配布や回収作業を笑顔で行いました。今回の調査活動に参加した学生たちは、それぞれの卒業論文等に向け、調査経験を積むこともできたようです。アンケートは用意した600部がすべて1時間半程度で配布終了してしまうほどの盛況ぶりでランナーの積極的な態度が伺

ました。

今回の調査の主な内容は、県外からこの大会参加のために訪れたランナーがどのような情報検索を経て参加しているか、またそれによって彼らが仙台市へどの程度の経済波及効果をもたらしているかを把握することでした。この調査内容に、スポーツ振興課だけでなく観光交流課も興味を示しており今後集計がまとまり次第、仙台市へも報告される予定です。調査から得られた結果をもとに、今後の大会運営だけでなく仙台市におけるスポーツ・ツーリズム（スポーツを主目的とした旅）の発展の道筋に繋がっていくことが期待されます。

マラソン終了後には各国の招待選手団との国際姉妹都市等交流会がにぎやかに開催され、姉妹都市中国長春市出身の本学留学生たちも学長らとともに参加し交流を深めました。



中国長春市からの選手団、  
リョウジイフン てんげん  
劉瑞芬さん、田源さん、  
ちょうが  
張賀さんと本学関係者

※撮影：遠山職員（事業戦略室）

## JICA「世界の笑顔のために」プログラムに参加



国際協力機構（以下：JICA）が主催している平成24年度第1回「世界の笑顔のために」プログラム（<http://www.jica.go.jp/partner/smile/>）に賛同し、つきやまともえ 梶山朋恵さん、ささきりか 佐々木里花さん（共にスポーツ情報メディア学科4年）、おくやまたかひろ 奥山隆寛さん（体育学科4年）、てしろちか 手代千賀さん（健康福祉学科3年）の4人が中心となって学内で不要になった物品の提供を呼び掛けました。回収期間は4月9日～5月21日で、サークル単位でバレーボール用品、サッカー用品、野球用品などが集められました。それらの物品は5月24日（木）に学生有志が一つひとつ丁寧に梱包し、JICAへ送りました。

このプログラムは開発途上国で必要とされてい

る教育・福祉・スポーツ・文化などの関連物品を日本国内で募集し、JICAがボランティアを通じて世界各地へ届けるプログラムです。本学では社会貢献事業の一環として平成19年の春から活動に賛同し、今回が9回目の活動となります。

（※昨年度は震災があったためJICAのプログラムには参加せず、大学独自で被災地支援の目的で物品募集・提供活動を行いました）。これまで多くのスポーツ用品を提供し、各国から御礼状も多数届いています。

### 梶山朋恵さん（スポーツ情報メディア学科4年）

佐々木里花さんと共に、1年生からこのJICA「世界の笑顔のためにプログラム」の活動に参加しています。これまでの活動では学内だけでなく、柴田町内にもポスターを張らせていただいて物品回収を呼びかけてきましたが、今回は学内に絞って回収の呼びかけを行いました。各サークルの協力により、今回のプログラムでは、軟式野球バット10本、バレーボール20個、サッカーボール12個をJICAに発送することができました。送ったものの他にもスポーツ用品が寄せられており、それらは秋の第2回プログラムで発送させていただきます。第2回プログラムの時にも再度、物品提供を呼びかけますので、引き続きご協力をお願いします。

## 早川講師の研究紹介

### ～スプリントトレーニングマシン(認知動作型トレーニングマシン)～



早川講師の研究計画に基づきC棟2階にスプリントトレーニングマシン(認知動作型トレーニングマシン)1台が導入されました。東京大学との共同研究としても使用されているこのマシンは基本的な身体動作である「歩く」、「走る」の動作を学習・改善するために開発(国際特許)されたマシンで、合理的で効率の良いフォームを身に付けることができます。もともとは陸上競技トップアスリートの競技力向上を目指したマシンとして実績を積んできましたが、体幹深部の筋肉を鍛え、骨盤や腰部の柔軟性の向上と、歩行動作の改善も図れることから、中高齢者や障害をもった方など低体力者に対する転倒予防など健康増進分野にも幅広く応用されてきています。なお、体幹深部筋を使うことが脳や神経を刺激し活性化させるなど、認知症の改善・予防効果があることも最近の研究で明らかになってきているようで、脳梗塞などにより神経が機能しなくなったものを再構築することにも期待されています。

実際に、脳梗塞により左半身に麻痺を持つ、管理課の丸谷コンサルタントも週に1度、早川講師の指導を受けています。はじめは歩幅も狭く、麻痺する左足で上下運動することができなかつたために自力でペダルを回すことができなかったそう

ですが、トレーニングを重ねるうちに、自力で左足が持ち上がるようになり、ペダルを回す操作ができるようになりました。50mの歩行テストを行い、トレーニング前後の比較を三次元分析で行ったところ、著しいフォーム改善と歩行速度の向上が認められました。

「他のリハビリもしているのですが、全てがこのトレーニングマシンの効果とは言えないが、はじめは自力で足が上がらなかつたのが、今ではできるようになっているし、歩幅も広がり歩くスピードも速くなっているのは実感しています。大学には早川先生をはじめ、その道のプロがいるので、サポートしてもらい、幸せな環境で仕事できています。」と話されています。

早川講師は4月にアメリカ・サンディエゴで行われた米国最大規模の学術学会「Experimental Biology Conference 2012」で、このマシンを使った研究「スプリントトレーニングマシンによる動作の質の改善効果」を英語で発表されています。

認知動作型トレーニングマシンはスプリントトレーニングマシンを含めて十数種類あるようで、これらのマシンも徐々に導入していき、仙台大学からさらなる地域健康づくりへの貢献を目指しています。早川講師は「今までは、“筋トレ”や“有酸素運動”といった、いわば身体機能の部分的(パーツ)機能の強化が主眼におかれてきましたが、これからの時代は包括的運動神経系の活性化によるQOM(Quality of Motion動きの質)の改善がQOL(Quality of life生活の質)を決定づける重要な要素になっていくでしょう。」と話しています。

## プールの解体工事はじまる



※5月31日、第2体育館キャットウォークから撮影

東日本大震災で使用が不能となっていた室内温水プールの解体工事ははじまりました。解体工事は7月末までで、解体後、同じ場所に新しいプール(室内、温水、25m)が建設される予定です。大震災以降、プールが使用不能ということで、水泳の授業や水泳部の練習は(株)アイリスオーヤマさんのご厚意により同社角田工場のプールを使用させていただきました。現在は仙南総合プール(柴田町内)を使用していますが、移動に時間がかかることもあり、新しいプールの竣工が待たれます。竣工は25年3月末を目指し、使用開始は4月からを予定しています。

## OG田中美衣さん全日本体重別選手権大会で2位

～ロンドンオリンピックの夢は潰れるも堂々の2位～



5月12日（土）に行われた柔道の全日本体重別選手権大会（ロンドン五輪日本代表最終選考会）に、本学OGの田中美衣選手（了徳寺学園職員／世界ランキング5位）がロンドンオリンピック出場の望みを懸けて挑みました。田中選手が出場する女子63kg級には世界ランキング1位で世界選手権2連覇中の上野順恵選手（三井住友海上）がおり、大会前から五輪代表が確実視されています。

代表権2番手につけている田中選手は、上野選手を圧倒して勝利しない限り代表権を得ることは難しい状況でした。田中選手は初戦、準決勝と苦戦しながらも勝ち進み、決勝で上野順恵選手と直接対戦しましたが、判定の末、惜敗しました。

後日談で、田中選手は大会の1週間前に足首の靭帯を損傷し、立っていることもままならない状況だったということでした。そのような状態であっても、この権威ある大会で準優勝という素晴らしい成績を残したことは称賛に値します。田中選手は女子63kg級の代表補欠に選ばれており、今後、代表選手と共に強化合宿に参加することが決まっています。

5月28, 29, 30日には支援して下さった方々へのお礼の意味も込めて来学し、朴澤学長、南條充寿・和恵監督に挨拶を行うとともに、学生の練習に参加して共に汗を流しました。「4年後のオリンピックはまだ先ですし、とりあえず来年の世界選手権を見据えて取り組んでいきます」と話しており、今後の活躍にも期待されます。

## 植松鉦治選手 惜しくもロンドン五輪出場ならず

ロンドン五輪出場を懸けて植松鉦治選手（平成20年度卒）が体操のNHK杯兼ロンドン五輪最終選考会に出場しました。体操のロンドン五輪代表は4月7, 8日に行われた全日本選手権と、5月4, 5日に行われたNHK杯の4日間の合計得点で上位11人を対象とし、個人総合の上位者の他、種目別の鉄棒とゆかを重視したポイント制度を適用して選考されました。

植松選手がオリンピックに出場するためには、全日本選手権で個人総合13位（鉄棒二日目1位）であったものを、NHK杯で個人総合の成績を11位以内に上げ、さらにNHK杯の二日間のどちらかで1位の成績を出すことが必須で、それができれば鉄棒枠での代表選出の可能性が残されていました。

NHK杯での植松選手は、選考基準である個人総合11位の枠までに上げ、鉄棒で1位の成績をあげました。植松選手はこの大一番でこの条件を全てクリアしたわけです。しかし、田中佑典選手(KONAMI)も同じく鉄棒で2度1位成績をあげたうえ、他種目のポイントで植松選手を上回ったため、代表権を獲得することができませんでした。植松選手は昨年4月の練習中に右膝前十字靭帯の断裂という大ケガから驚異的な回復力で復活を果たしてきました。惜しくもロンドン五輪出場は逃しましたが、今後の活躍に期待しましょう。

## OBの細川優樹選手(大分三好ヴァイセアドラー)が若鷲賞を受賞



細川選手が所属する大分三好ヴァイセアドラー

5月1-6日に大阪府立体育会館で開催された「第61回黒鷲旗全日本男女選抜バレーボール大会」において、本学OBの細川優樹選手(大分三好ヴァイセアドラー)が、大会の最優秀新人に贈られる若鷲賞に選ばれました。この賞はたいへん名誉あるもので、歴代受賞者には全日本代表選手など、送葬たる面々が名を連ねています。

もチーム初のベスト4に進出しています。細川選手の今後の更なる活躍が楽しみです。

5月15日(火)には卒業後はじめて来学し、在学中にお世話になった教職員に対して挨拶を行いました。

「若鷲賞を受賞できたことは、すごく光栄です。今大会ではスパイク決定率を60%超すことができた点は非常に満足していますが、課題であるディフェンス面にはなお課題が残りました。バレーボールの3大大会と言われるVプレミアリーグと黒鷲旗を通して、大学時代とは全く質の違う一流のボールに苦戦しています。そのボールに慣れることからやっていかなければならないと感じています」

## 漕艇部が全日本軽量級選手権大会で大健闘



写真提供：漕艇部

全国の大学・企業の漕艇部が出場する「第34回全日本ボート軽量級選手権大会」が5月18日~20日に埼玉県戸田ボートコースを会場に開催されました。本学漕艇部は、社会人も参加するこの大会で、男子エイト2位、女子舵手つきクォドルプル3位に入り、8月に開催されるインカレに向けて勢いをつけることができたようです。なお、今大会では本学卒業後も企業で競技を継続しているOBも多数入賞しています。

## 学生3名が世界学生フロアボール選手権 日本代表に



左から木村(恭)さん、鈴木さん、木村(太)さん

FLOOR BALL同好会の木村恭斉さん(体育学科4年)、木村太朗さん、鈴木雄太さん(体育学科3年)の3名が、5月23-27日にチェコ共和国で開催される「第5回世界学生フロアボール選手権大会」の日本代表に選出されました。

今大会で副キャプテンを務める木村恭斉さんは2年前に行われた第4回大会にも日本代表として出場しており、その時は6戦全敗で苦汁を飲んでいました。「前回大会後、世界に少しでも近づけるようにとの思いで2年間練習に励んできました。まだ世界とのレベルの差は大きいですが、チームが一丸となり前回大会では果たせなかった1勝を勝ち取りたいです。個人としてもアシスト・得点・守備でチームに貢献し、前回大会よりも成長したところを見せたいと思います。」と話しています。

フロアボールとは・・・

ユニバーサルホッケーと酷似したスポーツで、穴のあいたプラスチック製のボールとスティックを使い、ゴール数で争う競技。



## 仙台グリーンボウル 6月3日開催(入場無料)

東北学生アメリカンフットボール連盟主催



※仙台駅地下鉄構内に掲示

東北学生アメリカンフットボール連盟が主催する、東北アメリカンフットボール春期交流大会「第14回仙台グリーンボウル」が6月3日(日)にユアテックスタジアム仙台で開催されます。今年は仙台大学と日本体育大学の体育大マッチです。入場無料ですので是非、足をお運びください。

詳細は下記の仙台大学アメリカンフットボール部公式ホームページをご覧ください。

<http://www9.ocn.ne.jp/~falcons/schedule.html#green>